



所属・職位	福祉健康科学部 福祉健康科学科 心理学コース・准教授	
氏名	池永 恵美 (Ikenaga Megumi)	
取得学位	博士 (心理学)、九州大学、2012年3月	
SDGs目標		
研究分野	臨床心理学	
研究キーワード	臨床動作法、心身相関、心理劇、発達障害	
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ●身体志向の心理療法における身体感覚の気づきと自己制御に関する研究 近年、心理的問題に対する身体志向の心理療法が国内外で非常に注目され、その代表的な技法としてマインドフルネスや臨床動作法が挙げられる。しかしながら、両者の従来の研究では、心理的側面や脳機能に関する検討が中心であり、実際の身体の状態との関連については不明な点が多く、身体面へのアプローチが心理的変容になぜつながるのか、その作用機序については統一した見解はない。そこで本研究では実際の動作や筋緊張をバイオメカニクス的手法を用いて客観的に計測し、様々な心理的指標との関連について検討を行っている。 ●青年期発達障害者を対象とした集団心理療法の効果に関する研究 青年期はアイデンティティの形成が重要なテーマとなる時期であり、杉村（1998）はアイデンティティの形成を「自己の視点に気づき、他者の視点を内在化すると同時にそこで生じる両者の視点の食い違いを相互調整によって解決するプロセス」としたが、他者との相互的コミュニケーションに困難を有する青年期発達障害者の場合にはアイデンティティの形成に困難を有することが示唆される。また同時に幼少期からの生育環境等から二次障害を呈していることも多く、青年期発達障害者が同世代の他者と仲間関係を築き、相互受容的なコミュニケーションを体験できる集団心理療法の場は青年期発達障害者へ心理支援として非常に重要である。本研究では青年期発達障害者の集団心理療法の体験プロセスを自己理解・他者理解の変容という観点から検討を行っている。 	
研究業績・アピールポイント	<ul style="list-style-type: none"> ●論文 <ul style="list-style-type: none"> ・池永恵美・河野伸子（2022）. 青年期の発達障害者を対象とした集団心理療法過程—アスペルガー障害のある男性の3年間の経過の検討—. 大分大学臨床心理研究, 第2号, pp13-21. ・酒井奈那・富永咲子・花岡祐奈・松縄明日香・和田恵利菜・渡邊晴美・池永恵美（2020）. 青年期発達障害者への集団心理療法に関する先行研究の動向と課題. 大分大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要, 第15号, pp126-136. ・池永恵美（2012）. 臨床動作法における援助者の援助が動作者の動作体験に及ぼす影響. 心理臨床学研究, 29巻6号, pp762-773. ●著書 <ul style="list-style-type: none"> 本吉大介・池永恵美（2019）. 動作法における体験様式の研究. 針塚進監修・遠矢浩一編. 「臨床動作法の実践を学ぶ」. 新曜社, pp175-191. ●受賞 <ul style="list-style-type: none"> 2011年 日本リハビリテーション心理学会研究奨励賞 	